

平成30年度 第7回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 平成30年12月19日（水）午後2時から午後4時10分
- 2 場 所 沼田市役所第二会議室
- 3 出席者 大平孝雄委員、中澤 均委員、桑原幸夫委員、小林昭紀委員、木村敬史委員、太田あや子委員、松井孝夫委員、吉野君枝委員、林 康夫委員、市原康礼委員、小林 好委員、堤美也子委員、小田川裕哉委員、角田郁夫委員、沼田康子委員、佐山春樹委員
(16名/24名)
- 4 アドバイザー 篠田 暢之氏
- 5 沼 田 市 五十嵐副市長

(事務局：石井企画課長、武井企画係長)

6 配付資料

- 次第
- 第6回沼田市市民構想会議の概要について
- 第6回沼田市市民構想会議概要〔要約〕
- 提言のたたき台
- 「食と農業振興」、「観光振興」、「人口減少」に関する主な意見

7 内 容

- (1) 開 会（事務局）
- (2) 会長あいさつ（木村会長）
- (3) 前回の会議結果について
- (4) 議 題

1) 提言に向けた検討について

【協議経過】

これまでの「食と農業振興」、「観光振興」、「人口減少対策」に関する意見を踏まえながら、提言書の作成に向けた議論を行った。

【主な意見】

- 縮小均衡社会にあっても伸びやかに豊かな暮らしを営めるよう、モノからコトへの豊かな暮らしとはどうあるべきかという議論が必要である。
- 沼田市の魅力(良さ、豊かさ、暮らしやすさ)が市民に伝わっていないので、それを実感してもらえるような具体的な提言が必要である。

- 住む人の人柄や豊かな自然環境は市外の人々に誇れる地域の財産である。
- 小規模農家の支援、狭隘な農地の活用の在り方などが、今後、集落を維持していく上で不可欠であるほか、集落の維持に関しては異業種連携の促進が重要であり考える必要がある。
- 中心市街地ばかりでなく、人口減少が著しい周辺地域や、そこに住むお年寄りの生活、とりわけ生きがいづくりにも目を向けた提言にすべきである。
- 現に住んでいる人が幸せな地域は外から見ても魅力的であり、先ず住んでいる人が幸せと感じられるまちづくりが必要である。
- 中学校卒業後の若者の市外流出が増加しており、若者が魅力を感じるまちづくり、市外から若者が戻ってくるための受け皿（若者が収益を上げられる魅力のある職場があるなど）が必要であり、若者が戻ってくることで地域もお年寄りも元気になる。
- 抽象的な提言ではなく、これまでの議論を具現化する具体的な提言(方策)が必要である。
- 市外から外貨を獲得するための取り組みが必要である。
- 少子高齢化が進み地域経済が縮小していく社会では、住民が互いに支え合う地域コミュニティが必要になっている。(SNSやLINEをツールとして、人と人とを結び付けていくことも考えられる)
- 農業と観光を連携させて経済を循環させることで、様々な連携が生み出され、地域経済を強化することができる。
- 過疎地域の苦しい実情がある一方で、コンパクトシティの考え方もあり、必要となるインフラ整備などについて、限られた資源をどう使っていくのか議論が必要である。

【結 論】

今回の議論で出された意見を整理した上で、次回も引き続き提言書の作成に向けた議論を行うこととした。

2) その他

○今後の会議日程を次のとおり確認した。

- ・第8回会議 1月22日(火) 午後2時 沼田市役所 第二会議室
- ・第9回会議 2月20日(水) 午後2時 沼田市役所 第二会議室

(5) 閉 会 (事務局)